

**漢方製剤の記載を含む
診療ガイドライン
(KCPG)
Appendix 2011**

2011.10.1

**日本東洋医学会 EBM 特別委員会
エビデンスレポート/診療ガイドライン・
タスクフォース (ER/CPG-TF)**

**Clinical Practice Guidelines
Containing Kampo Products in Japan
(KCPG)
Appendix 2011**

1 October 2010

**Task Force for Evidence Report/
Clinical Practice Guidelines
(ER/CPG-TF)
Special Committee for EBM
The Japan Society for Oriental Medicine (JSOM)**

ver.1.0 2011.10.1

version の履歴

2011.10.1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン Appendix 2011

2010. 6. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010

2009. 6. 1 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2009

2008. 4. 1 漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1

2007. 6.15 漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007)

なお、漢方製剤の記載を含む日本国内発行の診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1 の内容は、以下に詳しい。

Motoo Y, Arai I, Hyodo I, Tsutani K. Current status of Kampo (Japanese herbal) medicines in Japanese clinical practice guidelines. *Complementary Therapies in Medicine* 2009; 17: 147-54.

本 Appendix について

日本東洋医学会 EBM 特別委員会 エビデンスレポート/診療ガイドライン タスクフォース (ER/CPG-TF) では、わが国の診療ガイドラインの中から、漢方の製剤に関する記載を調査し、「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン」(KCPG)として日本東洋医学会のホームページに公開している。現在までの最新版は2010年6月1日に公開した「漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン 2010」(KCPG 2010)である。

本 Appendix は、KCPG 2010 以後の1年間の動向について2011年3月31日に調査を行い、2010年4月1日から2011年3月31日までの間に東邦大学医学メディアセンターの「診療ガイドラインリスト」に新たに収録された108件から、79件を調査対象として選び、その中の漢方製剤に関する記載を調査し、タイプ別に分類したものである。調査方法の詳細は KCPG 2010 を参照されたい。

KCPG 2010 からの追加・変更は以下の通りである。

- ・新規に作成された7つのCPGに、漢方製剤の記載が掲載された。
 - (1) 日本皮膚科学会円形脱毛症診療ガイドライン 2010、(2) エビデンスに基づいた月経前不快気分障害 (PMDD) の薬物治療ガイドライン、(3) 急性呼吸不全による人工呼吸患者の栄養管理ガイドライン、(4) 線維筋痛症診療ガイドライン 2009、(5) 劇症肝炎の診療ガイド、(6) 甲状腺腫瘍診療ガイドライン 2010年版、(7) 新型インフルエンザ診療ガイドライン
- ・従来は漢方製剤の記載のなかったCPGのうち、2つの改訂版で新たにそれが掲載された。
 - (1) 認知症疾患治療ガイドライン 2010、(2) 気分障害治療ガイドライン 第2版
- ・従来から漢方製剤の記載のあったCPGのうち、4つのCPGにおいて、記載が継続掲載された。
 - (1) 科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン 1. 薬物療法 2010年版 (記載内容は前版のまま)、(2) アレルギー疾患診断・治療ガイドライン 2010 (記載内容は前版のまま)、(3) NASH・NAFLDの診療ガイド 2010 (記載内容は前版のまま)、(4) 臨床検査のガイドライン JSLM 2009 検査値アプローチ、症候、疾患、検査の評価法 (従来の記載に新たな記載が追加された)
- ・従来は漢方製剤の記載があったCPGのうち、2つの改訂版でそれが除外された。
 - (1) ペインクリニック治療指針 改訂第3版、(2) 科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2010以上から、本 version では以下の通りとなった。

date	2007.6.15	2008.4.1	2009.6.1	2010.6.1	2011.10.1	
タイトル	漢方製剤の記載を含む 日本国内発行の 診療ガイドライン (中間報告 2007)	漢方製剤の記載を含む 日本国内発行の 診療ガイドライン (中間報告 2007) ver1.1	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン2009	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン2010	漢方製剤の記載を含む 診療ガイドライン (KCPG) Appendix 2011	
調査日	2007.3.31	2007.3.31	2008.12.31	2010.3.31	2011.3.31	
東邦大学医学メディアセンター website	収録件数	570	573	852	1008	1117 ²⁾
	調査対象CPG	570 ¹⁾	346	455	528	584 ²⁾
その他のCPG	調査対象中の漢方CPG	47 ¹⁾ (8.2%)	35 (10.1%)	43 (9.5%)	51 (9.7%)	58 ²⁾ (9.9%)
		2 ¹⁾	1	1	1	1 ²⁾
漢方CPG	タイプAの個数	7 ¹⁾	6	7	8	11 ²⁾
	タイプBの個数	13 ¹⁾	13	16	19	21 ²⁾
	タイプCの個数	29 ¹⁾	17	21	25	27 ²⁾

タイプA: 引用論文が存在し、エビデンスと推奨のグレーディングがあり、その記載を含むもの

タイプB: 引用論文が存在するが、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの

タイプC: 引用論文も存在せず、エビデンスグレードと推奨のグレーディングのないもの

- 1) 東邦大学医学メディアセンターwebsite収録の「診療ガイドライン」全てから漢方CPGを調査した。一方、2008.4.1版以後は、東邦大学医学メディアセンターwebsite収録の「診療ガイドライン」のうち、以下を除外して調査を行った。(1) 外国のCPGとその翻訳版、(2) 医療倫理に関するガイドライン、(3) 動物実験や治験など研究に関するガイドライン、(4) すでに改訂版が作成されているCPGの旧バージョン、(5) 一般向けなど、CPGのダイジェスト・バージョン、(6) その他、臨床診療を目的としないガイドライン。したがって、2007.6.15の報告と2008.4.1以後の報告とでは、調査対象件数が異なることに留意されたい。
- 2) KCPG appendix 2011は、2010.4.1-2011.3.31の新規掲載、継続掲載部分のみを掲載しているが、ここでは、2011.3.31時点での全体の状況を示している。

社団法人 日本東洋医学会
第3期 (2009.6-)
EBM 特別委員会
エビデンスレポート/診療ガイドライン・タスクフォース (ER/CPG-TF)

班長 chair

岡部哲郎 東京大学大学院医学系研究科 漢方生体防御機能学講座

班員 member (10名, 50音順)

北川正路 東京慈恵会医科大学 学術情報センター 図書館

後山尚久 大阪医科大学 健康科学クリニック

小暮敏明 社会保険 群馬中央総合病院 和漢診療科

後藤博三 富山大学大学院医学薬学研究部 (医学) 和漢診療学講座

詫間浩樹 慶応義塾大学薬学部 社会薬学講座

鶴岡浩樹 つるかめ診療所

自治医科大学地域医療学センター 地域医療学部門

中田英之 財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院 漢方内科・健康医学センター

藤澤道夫 東京大学 保健・健康推進本部

星野恵津夫 癌研有明病院 消化器内科

元雄良治 金沢医科大学 腫瘍内科学部門

オブザーバー observer (2名, 50音順)

新井一郎 日本漢方生薬製剤協会 医療用製剤会議 有用性研究部会

大谷 裕 東邦大学 医学メディアセンター

EBM 特別委員会委員長, EBM 特別委員会担当理事

津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学

(2009年6月19日-2011年6月9日)

EBM 特別委員会委員長

津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学